

12/7(金) 山田大使のアルメニア大地震 30 周年追悼式典（スピタク市主催）への出席

アルメニア大地震(※注)の発生から 30 年に当たる 12 月 7 日、ロリ地方スピタク市において、同地震の犠牲者及び東日本大震災の犠牲者を追悼するそれぞれのハチュカルを前に、スピタク市のアルメニア教会によるミサ及び献花式が行われました。式典には山田大使他チェコ及びポーランド大使、アルメニア側からは、ナザリャン非常事態省次官、サハキャン・スピタク市長、ガブリエリャン非常事態省支部長(東日本大震災犠牲者のためのハチュカルは同氏のイニシアチブにより建立されました)をはじめ多数の市民および同市救助隊員らが参列し、献花を行いました。

式典に続き同市内ホールにて追悼記念コンサートが開催されました。同会場にて、山田大使からは、アルメニア大地震で被災された全ての方々にお見舞い申し上げると共に、同じ地震国として引き続き二国間関係の発展・強化に努めていきたい旨、及び東日本大震災後のハチュカルの建設やアルメニア国民から日本の同被災者に対する支援への謝意が述べられました。



アルメニア大地震犠牲者のためのハチュカル



(左より)ガブリエリャン非常事態省支部長、山田大使、サハキャン市長



追悼式典の様相



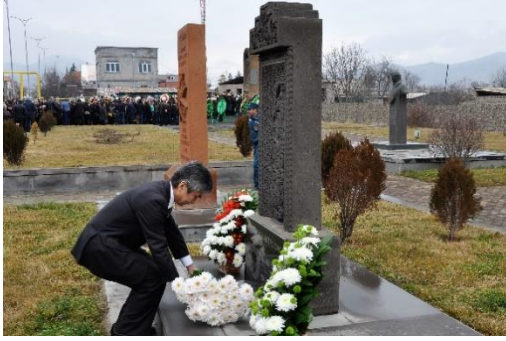
市民の献花の様子（1）



市民の献花の様子（2）



東日本大震災犠牲者のためのハチュカル



山田大使による献花



コンサート会場でのサハキャン市長
のスピーチ



コンサート会場での山田大使の
スピーチ

コンサート終了後には、同市内非常事態省支部の施設・設備の視察も行われ、大使と同省スタッフの間で意見交換が行われました。



非常事態省支部の消防車



ガブリエリャン支部長他、
非常事態省のメンバー



非常事態省スピタク支部員

※注：アルメニア大地震…1988年12月7日、スピタク市を震源とするマグニチュード6.8の大地震が同市を襲い、市の産業は壊滅し、当時の人口の3分の1に当たる約4,000人が犠牲になりました。震災後、日本の支援（日本は国際緊急援助隊の派遣、緊急援助物資の供与等の緊急援助を行いました。詳しくは[こちらのリンク](#)をご覧ください）や各国援助機関による復興事業により街は徐々に再建されていますが、今なお約3,000人の被災者が仮設住宅で生活しています。

また当館は、仮設住宅に暮らす児童を含む350名の学習環境及び教職員58名の就業環境を、天然ガスと太陽光エネルギー併用の設備に更新することで、被災者の就業環境を向上させるプロジェクト「スピタク市第8学校暖房設備改善計画」を支援した実績があります。（本件の詳細は[こちら](#)）。

過去の追悼式典に関する当館 HP 関連記事：

https://www.am.emb-japan.go.jp/itpr_ja/b_000255.html